



八尾町 三乗 ●

VOL.2

2002年10月発行

会 報 誌

Toyama TANADA Network

会員数 392名 (H14.9.30現在)

# とやま棚田ネットワーク

ネットワーク会員40名が参加！

「棚田見学バスツアー」を開催。



●山田村 宿坊

賞した山田村宿坊地区の棚田。広域農道（宿坊大橋）から見る棚田は雑誌などでも取り上げられる風景とあって、皆さん盛んに写真を撮っていらっしゃいました。また、八尾町三乗地区では、「日本の棚田百選」に選ばれたことをきっかけに開校した「みのり棚田の学校」を訪問。地元関係者から、都市住民との交流を目的として行なわれている農作業体験などの取り組み状況の説明がありました。八尾町仁歩地区の「ほたるの里」では、県ほたる研究会会長の長瀬二郎氏による「棚田にすむ生き物について」と題した講演を拝聴。棚田にはホタルやトンボなど多くの生き物が生息していることを再認識し、自然との共生や環境づくりの大切さについて意見を述べあうなど、大変盛り多い一日となりました。参加者の方々にはアンケートにご協力いただきました。今後の活動に役立てていく予定です。

※アンケートの結果については裏面をご覧ください。

9月7日、とやま棚田ネットワークの主催による「棚田見学バスツアー」を開催。婦負地域（八尾町・山田村）の棚田見学を通して自然とふれあい、棚田への理解を深めました。カメラ持参の参加者から関心を集めたのは、「美しい日本の村コンテスト」で農林水産大臣賞を受賞した山田村宿坊地区の棚田。広域農道（宿坊大橋）から見る棚田は雑誌などでも取り上げられる風景とあって、皆さん盛んに写真を撮っていらっしゃいました。また、八尾町三乗地区では、「日本の棚田百選」に選ばれたことをきっかけに開校した「みのり棚田の学校」を訪問。地元関係者から、都市住民との交流を目的として行なわれている農作業体験などの取り組み状況の説明がありました。八尾町仁歩地区の「ほたるの里」では、県ほたる研究会会長の長瀬二郎氏による「棚田にすむ生き物について」と題した講演を拝聴。棚田にはホタルやトンボなど多くの生き物が生息していることを再認識し、自然との共生や環境づくりの大切さについて意見を述べあうなど、大変盛り多い一日となりました。参加者の方々にはアンケートにご協力いただきました。今後の活動に役立てていく予定です。



●「棚田見学バスツアー」参加者

皆で考えよう、安全な暮らしと命を育む地域の未来を！

とやま棚田ネットワーク会長 遠藤和子

棚田保全に向けて都市住民も加わり、世代を越えた幅広い連携で乗り越えようと、とやま棚田ネットワークを立ち上げて1年になりました。棚田各地域の声を吸い上げて、行政とのパイプ役を果たしていくのですが、その手始めに、実態把握のための棚田めぐりを行いました。これをもとにして各地域との交流を図り、互いに学び合い、助け合っていかなければならないと思います。

## バスツアー／ルート

- 県庁前出発
- ↓
- 婦中町道島地区
- 見学 ほたるの里、炭焼き小屋
- WORK 農村環境創造基金事業  
ふるさと水と土ふれあい事業など
- ↓
- 山田村の棚田
- 見学 白井谷
- ↓
- 山田村交流センター
- ↓
- 山田村の棚田
- 見学 宿坊
- ↓
- 八尾町河西地区の棚田
- 見学 景観植物、ピオトープなど
- WORK 中山間地域等直接支払制度など
- ↓
- 仁歩ほたるの里農村公園
- 見学 ほたるの館
- WORK ビデオ鑑賞「ホタルの四季」
- ↓
- 講演「棚田にすむ生き物について」  
講師・長瀬二郎氏
- WORK 棚田に生息する動植物や自然環境など
- ↓
- 意見交換
- ↓
- 八尾町三乗の棚田
- 見学 日本の棚田百選
- WORK みのり棚田の学校の取り組み
- ↓
- 県庁前解散



# ガンバっています。 棚田の保全活動。

棚田の保全や活性化をめざし、  
県内各地でさまざまな活動が行なわれています。  
今、どんなことに取り組んでいるのか、  
これからどんなことが予定されているのか、  
各グループの状況についてご紹介します。

## 集落が一丸となって 耕作放棄田の復元へ

小矢部市

みやじま

平成14年度に発足した「小矢部市棚田保全活動推進委員会」では、耕作放棄田の復元に取り組んでいます。まずは農家から放棄された農地を借り受け、草刈り・耕起。復元した棚田で赤かぶなどの特産品を栽培し、大歳の市や朝市などで販売します。この夏、猛暑の中で、耕作放棄田の復元に向けた草刈りがスタート。額に汗しながら、田に繁茂した笹との戦いが続いています。次の段階であるほ場の準備が差し迫っているため、草刈り機を握る手にも力が入ります。活動はまだ始まったばかりですが、集落が一丸となって活動をやり遂げようという意欲も少しずつ芽生えてきました。これらの機会を通して、棚田の保全を考え、地域の活性化につなげていきます。



### 悪戦苦闘した夏の日

8月1日から7日にかけて、赤かぶ栽培の前段階となる放棄田の復元作業が行なわれました。何年も手を入れていないため、草ぼうぼうの状態だった放棄田でしたが、作業後は見違えるようでした。復元に携わった皆さんは、鎌や草刈り機を手に汗だくになり、悪戦苦闘しながらも、これからの活動について笑顔で語り合っていました。今後は赤かぶを植えて収穫し、販売も行なう予定です。自然豊かな棚田で作られた赤かぶはどんな味がするのか、とても楽しみにしています。

宮島地区(屋波牧・嶺、計1.2ヘクタール) 赤かぶ栽培スケジュール

- 7月27日～8月9日 ● 草刈り・立木伐採・機械除草など
- 8月24日・31日 ● 耕起・肥料散布
- 9月1日・7日 ● 種まき
- 9月21日～10月1日 ● 追肥
- 9月下旬～10月中旬 ● 病害虫防除
- 11月上旬 ● 収穫(種まき後60日程度)

## 54組のオーナーが参加した 田植え作業

5月25日、54組の棚田オーナーが参加して田植え作業が行なわれました。この日は絶好の田植え日和となり、オーナーの皆さんも土の感触を楽しみながら田植えに取り組んでいました。外国の方も毎回参加されており、水田に足を取られながらも明るい笑顔で田植えをする姿が印象的でした。また、子どもたちは泥だらけになりながら、おたまじゃくしを捕まえるのに夢中だったのですが、その横で子どもたち以上に夢中になっているお父さんたちもいたようです。そんなほほえましい光景も見られ、明るく楽しい田植え作業となりました。

氷見市

ながさか



## 軽快なラテン音楽が響いた 「みんなで農作業の日」

7月28日は「みんなで農作業の日」。村民、農園オーナー、県職員、ネパール人の農業研修生など200人が集まり、坂上地内の休耕田を復旧してソバの種まきを行ないました。汗をかいた作業の後は、坂上八幡宮境内にある坂上の大杉(天然記念物)をバックに棚田コンサートがスタート。昼食を食べながら、みんなでフローレスデュオの軽快なラテン音楽を楽しみました。

利賀村

さかうえ



# 棚田を守り、学ぶ 「わくわく自然教室」

棚田保全活動支援事業の一環として、「わくわく南保活性化協議会」が南保地区の放棄田で「わくわく自然教室」を開催。地元の小学生と父母の方々で地域の皆さんと一緒に土を耕し、枝豆やモチキビなどの作物を植え付けました。この作業は、農家の高齢化や猿の被害が多発する中山間地域で増えている遊休農地を守ること、そして、地元の小学生に棚田を守る必要性を学習してもらうことを目的としてスタート。自然体験を通して、子どもたちがわくわくするような夢づくりの場を広げていきます。



## わくわくする夢を棚田にたくそう！

今回実施した自然教室では、地元住民と子どもたちが共同で作業することによって、起（興）こした棚田の数だけ夢が広がる体験をしてもらいたいと考えました。遊休農地を興（起）し、田畑に戻すとどんなことが起きるか……子どもたちには想像もできないと思います。たぶん、猿やカラスの被害にも遭うでしょう。でも、自分たちで植えた作物です！ 若い力で乗り切り、わくわくするような夢を棚田と一人ひとりの心に詰め込んでもらいたいです。

朝日町役場 農林水産課 荒尾穂高

## 秋の収穫祭に乞うご期待！

今年から復元に取り組んでいる南保の棚田は、朝日町の田園風景や人の動き、市街などが一望できる絶景のクラウンポイントです。この場所にソバやモチキビなどを栽培し、地元の小学生、地区の人々、町民の皆さんが協力しあって元気よく里山の原風景づくりを展開しています。秋に計画している収穫祭りで、皆さんと手作りのソバや餅を味わうのを今からとても楽しみにしています。

わくわく南保活性化協議会 会長 長崎高一



## 子どもたちによる ケナフの植付け

上市町

5月29日、上市町の中央、宮川、陽南の各小学校から6年生70名が参加し、432本のケナフを植えました。9月24日～26日にはケナフを刈り取り、皮むき作業を行ない、10月には自分たちの手で植えたケナフで紙すきを体験することになっています。

## 中央農業高校「棚田を守り隊」



中央農業高校の生徒たちで結成する「棚田を守り隊」が、8月9日、大山町日尾集落で畦草刈りを展開。中山間地域の農家の大きな負担となっている「あ

ぜ」や「のり面」の草刈りを体験し、棚田の維持の大変さを身を持って学びました。地元農家の皆さんからは「若者たちの心意気に感動しました」という喜びの声が相次ぎました。また、10月13日にはメンバーのうち、無農薬米の栽培に取り組む8名が丹精こめて栽培した米の販売を体験しました。これは、富山市の米穀店「米よし」の協力で実現したもので、当日は開店前から行列ができる大盛況で、用意した300キロの新米は約1時間で完売しました。研究班リーダーの高橋君は「無農薬米がこんなに注目を集めるとはびっくり。健康で強い苗にするため、土作りや草刈りにも手をかけてきました」と自分たちの活動に自信を深めた様子。店頭では棚田ネットワークのチラシも配布され、農業の重要性をアピールしました。



## 棚田ネットワークの1年

□5月5日 八尾町「みのり棚田の学校」春の農作業体験

□5月25日 水見市長坂「棚田オーナー事業」田植え

□5月29日 上市町種「ふるさと学習」開校

□6月15日 朝日町南保「わくわく自然教室」

□7月27日～8月9日 小矢部市宮島「草かり」

□7月28日 利賀村坂上「みんなで農作業の日」

□8月9日 中央農業高校「棚田を守り隊」大山町日尾の畦草刈り

□8月11日 黒部市布施谷「ソバの種まき」



・収穫を楽しみにソバ栽培で棚田保全

□8月24～25日 八尾町「みのり棚田の学校」秋の農作業体験



・「学校行事」の一環として、おわら観音会も実施

□9月21日 水見市長坂「棚田オーナー事業」稲刈り、はさがけ

□9月24～26日 上市町種「ふるさと学習」ケナフ刈り取り・皮むき

□10月13日 福光町小又「さつまいも掘り体験」

□10月下旬～11月上旬 小矢部市宮島の屋波牧・嶺地区「赤かぶの収穫」

□11月10日 黒部市布施谷「布施谷まつり」

# バスツアー参加者の皆さん、ご協力ありがとうございました！ 棚田保全に関するアンケート調査報告

アンケートにお答えいただいたのは40名中29名。男性が8割、女性が2割で、50代、60代の参加が多く見られました。棚田に対しては「美しい景色」「狭くて小さい」「農作業が大変」というイメージがあったようですが、今回のバスツアーを通して「アピールの必要性」「イベントへの積極参加を」など、多数のご意見をいただきました。棚田保全のために私たちができること。これからも皆さんと共に考えていきたいと考えています。



●八尾町河西地区のピオトープ田見学

## Q これまで棚田とどのように関わったことがありますか？



## Q 棚田にはどのような機能が重要だと思いますか？



## Q 棚田保全のために今後行おうと思っていることは何ですか？



## Q 棚田見学バスツアーに参加された目的は？



## とやま棚田ネットワーク 会員募集中

「とやま棚田ネットワーク」は棚田に興味をもつ人なら、誰でも会員になれる棚田の広縁団。棚田をもっと知りたい、保全活動に参加したい、そんな仲間を募集しています。

### ●会員になると

- (1) 会員証が交付されます。
- (2) 会報誌により、棚田に関する取り組みや催しの情報、参加募集の案内が受けられます。
- (3) 保全活動などへの参加は自由です。

### ●会員になるには

原則高校生以上で、棚田のことをもっと知りたい方、棚田に関係している方ならどなたでも会員になれます。

### ●お申込み・お問合せ

「とやま棚田ネットワーク」事務局  
(社)富山県農業公社設計管理課へ氏名、住所、TEL、Eメールアドレス、性別、年齢、職業、資料送付先を明記してお申し込みください。

### ●入会状況

平成13年11月29日の「とやま棚田フォーラム」より会員募集をスタート。9月30日現在392名の方が棚田仲間になりました。

## お便り募集

会報誌の感想、棚田に関する情報・意見など、あなたの声をお寄せください。また、会報誌に掲載する棚田写真を募集中です。郵便番号・住所・氏名・生年月日・電話番号・会員番号をお書き添えのうえ、郵送にてお送りください。

2002年10月25日発行



## とやま棚田ネットワーク 事務局

富山県農業公社設計管理課内

〒930-0096 富山市舟橋北町4-19  
TEL:076-441-7398 FAX:076-444-3851  
Eメール noko-1@eos.ocn.ne.jp  
ホームページ http://www8.ocn.ne.jp/~tnoko/